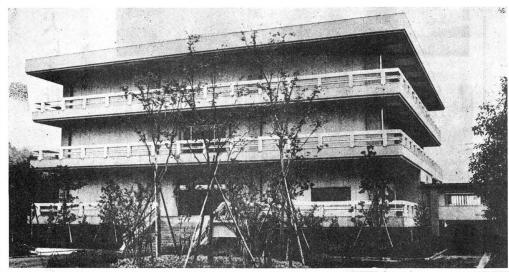
(1)

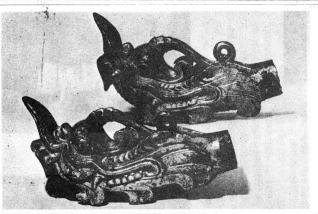
倉 院

像大社神宝舘完成

宗

千数百年の歴史を秘めて沖ノ島祭祀神宝ここに展示





資料が一堂に会することになっ

事は清水建設株式会社の施工によ びとなった。既報のとおり本体工 最終工程として内山緑地建設株式 の島森のしげみの岩かげに、壬歳 下がお詠みになられた詠進歌 九十年の新年歌会始めに三笠宮殿 える長雨により工事は難渋したが れていた。今夏の異常気象ともい 会社により周辺の造園工事が行わ 当大社神宝館が完成し、来る十 . 月上
有にはすべての
造園植栽を しい試みとして関係者の注目を浴 ケースが即、保存庫の機能を果た の除湿乾燥をはかっている。展示 しており、文化財保存展示の新ら に使用されているドRPという石

かりにし神祭りのあと」の歌碑が一さまざまの工夫がこらざれている 彩に亘る数多くの神宝を参観者に より分り易いように展示しようと 展示が着々と進められている。多 現在、館内では開館に向っての

大人三〇〇円、学生(高・中学生 四時半まで。年中無休。拝観料、 神宝館の完成により当社の文化 時。一般公開は翌十一月九日よ 竣功落成式は十一月八日午前十

名とはつらはらに、地元でその全 は大きく、従来、海の正倉院の盛 励するかけ声も無駄か。 まさに珍現象、収獲を減らせと指 理の設所を苦しめる破目となって ち三十年を越えて今日はどうか。

筒 鉄筋コンクリー

十六ケの西ケースが搬入された。 いる実験を経てこの程完成し、三 即氏が、従来のケースとは異った 一夏を経過して充分な乾燥期間を 沃態となっている。また館内に のものを創案開発され、度重 相俟って文化財収蔵には最適 跡の復元模型や写真パネル、解 沖ノ島全島の精巧な模型、祭祀遺 剣、装身具、ガラス製品、滑石製 海の正倉院沖津宮祭祀神宝を一堂 に展示する。鏡、勾玉、馬具、 るが、より分り易くするため、

月八日竣功落成式

毎月発像 十五日発行 行 所

結婚式場用品 具、

装

束

会株社式

井

九州店

社

京都市下京区油小路六条北入電話福岡(0元)六五一一九福岡市博多区東公園二一三一 電話京都(0)五)五1-1

沖の島森のしげみの岩かげに

千歳ふりにし神祭りのあと

熱い視線を浴びることであろう。 け替えのない貴重な文化財もあり けている重文指定の文書である。 関する根本資料でわが国中世史研 は中世に於ける当社祭祀、社領に 鳢、木造釈迦如来立像、 石 製 経 して、石造狛犬、足利尊氏拝領 また同じく重文の色定法師書写一 その他、宗像郡内出土考古遺

連中は多羅腹食って、陰の生活は

軸並べて飾りぬ

日の里 清原

お盆には出光松寿と美盛の竹の掛

孫や曽孫に皆幸あれと

曲

天野トモス

子沢山の吾八十二にして祈るなり

福間、広渡一寿軒

なり、当社の歴史を物語る貴重な 品を逐ぐ、自動車は輸出品の花形 テレビ写真器は外国一流会社の製 て日本人は元通りの勤労に、食糧 見せた「林檎の気持はよくわかる となり、大量生産に拍車をかけ の一節は含みのあるところ、少

た。タンカーも大型化して、多国 の注文も少くなかった。二十年経 逃れてもなを足ぬらす波の秀素足 薄原口き穂波は騒ぎ立つ快速列車 ひと歳をかけて栽りし鉢の菊台風 秋たちて茄子はすなおに立直りて 吉留 鐘 \mathbb{H} 熊 高山 吉田 吉田

打ちならす法鼓の音の雄々しくも

越智

大

井

吉田ますみ

永雨もようやく晴れて離屋に風鈴 水汲みて田の面に送る三連の水車 風吹けば吹かるるままにコスモス 田 玄

鷲津かつ代

の音ときおり聞こゆ

として沖ノ島出土の織機、五弦 伊勢神宮撤下神宝。この他、重文 一階は神宝館の白眉ともいえる 階は「古代と現代との奉献神

良三彩小蓮一等、考古学的にもか 製館頭一対」や「金製指輪」 舶載品「唐三彩長鎮瓶」と「金銅 りに食糧配給は望めず、ひどい時 もなかった。結局占領軍に対する んげをしなければならぬ悪夢は何 語の中に消えた。実のところ、ざ ことをした決戦でもなかったのに かった。闇米が横行し、 は四十日以上一粒の米も渡されな だけに生きる希望が残った。悪い て欠乏して敵米軍のキリスト教主 に変懇した。然し、国民の希望通 に終った時、荒廃した国土を眺望 蒙 少 言

せて」の無難な流行歌が、巷に人 皆同類だからの「赤い林檎に唇よ を、とがめる議員も役人もない。 うそぶいた。法に違反する自侵面 身分不相応の贅沢もあった。国会 ているから、演説ができるのだと では革新議員が堂々と闇米を食っ 米兵もこの歌はよいと 音高く耳にしみいる 静まりて夜半の月影窓にさす虫の 案内の英語わかねば乗客の頭めぐ 田 福 久 間 二宮 立花

> 黄河の舟下り見て余名の三十六洞 山あいの陽のやわく照り映ゆ 豊後路の田の辺に咲ける曼珠沙華

田

島

吉武

俊次

田

熊

力丸

曼珠沙華流れに沿ひて咲き続 徴笑秋日に照らさる り今年の夏は雨多くして 時機すぎて植替えし大樫根づきた 箱 崎 吉村 藤田

減多に賞めないのに賞詞を新聞に

色に光れり秋日に映えて 盆栽のヤクシマススキの一鉢が銀 雑草にも消長ありやこの畑にはび 梅雨の雨に着果するなく蔓ぼけの 杉菜に代るかたば五 津 香 田 丸 椎 桜井 小方

薬草を取りに来たりし川土手の背 に早も秋虫の声 宗 像 松尾

第三回 宗像大社歌会詠草 毎月一日グ切

歳老けて嘗て聞かさる冷夏にて赤 とんぼ一つ亡き見にみゆる 雨止みし夕べを庭に羽やすむる赤 技が身にはかかるおおごとを看護

浜の月淡く照せ里 暮れかかる里道帰る吾が影を十日 武丸 原田まつ代

山木の古葉散る音 会者定離嘆きて居れば梅雨時雨泰 名古屋 野崎 原 町 八波

豊公が茶の湯に使はれし太閣水会 づくほうしが鳴き立てにけり 夏か秋か気象異変をかこつ夕つく も柳井沢にありしと聞けり 徳

留 白木うめの 重 石松や寿子

日は観劇の席に見かけぬ 快方に向ひゐると便りくれし人今 吉

ナは赤く庭隅に咲く 長雨の空見上げつつ所在なしカン 武丸 福岡南 林 まつえ

ぎの一つ佗び啼く蛭ケ野の家

立石ろせ乃

掛けもせぬ年金有難く頂きて出か 夕食の膳に焼きたる冷凍角せめて レモンの果汁垂らさむ 武 丸 原田

表装を終へて床に懸く 賜わりし仁和寺門跡立部師の書の 東 郷 Ш 田中

祀る慰霊碑の建つ 三十五年経て産土の境内に

あわれなり世阿弥の作かシテとい

仕事もあとが続かないのが当然とされてきた。 なくなったと同様に、姉さん短りの祖母や母の 見られた姉さん。別の海辺労働は消えた。若者

に強いて海辺仕事の後継者たることが求められ

進む者も僅少とは云えない。従って何十年前に

女性も

大抵は

高校教育を

受ける

、短大以上に

は見当ならない。

無業組合対係は解説する。

る。漁獲の入った重い竹匠を担う労働よりも、

は産業界の変動も急デンポになったが、この辺 マンでなくても、若者の頭脳をゆさぶる。昨今 あることも知らされている。一世を圧する大口 ネジリ鉢巻のシワまみれとは甚しいギャップの 主的に合理的に生きようとする若者の頭脳も、 業界に生産上の注文を持ち込む時代、現代を自 1.米国のカーター大統領が、わが国の自動車産

で石油にエネルギー源の王座を奪われる前、筑

若い女性の多くは、都市の銀行や会社に勤め

タイプ算盤記帳応対の姿に魅力が感じられる。

憂慮されるが、漁村にも例外はない。その理由 が減少する傾向を発表している。農村も過疎が

当局の調査による統計は、年毎に漁村の人口

がふえてきた老翁が、小学生の頃 ネジリ鉢巻はしていても、疲労が早く憩いの間

「われは海の子白浪の かよう磯辺の松原に

論説

海

辺

0

祈

n

は極めて簡単で、今日の生活を支える経済的基

盛が弱体化する、若者の後継者が残らない、と

と歌った思出は今もなつかしいだろう。時季の

イメージも求め難くなった。今の松原には苫屋

宗

昭和五十五年度

宮に着御され、宗像三宮の大前で

秋季大祭盛大に斎行

玄界を渡る御神幸大船団



停泊した御座船を石に大きく迂回 花火の号砲を合図に神湊沖に一時 路を東にとり「倉瀬」「地ノ島」 島港を一斉に船出した約五百隻の 仕による風俗舞が炎べれた。

り先、辺津宮神輿は午前十時に頓馬上より放たれる一射・一射に大次々に神職の手により伝供され、 間に及ぶ海上神幸は終了した。 神霊は神溪頓宮に御着御、これよ神事が行われ、三名の帰馬武者の一後、本殿に参照、盛沢山の神饌が し、玄海洋上約二十粁の間、一時がごわやかな木洩目となり馬場参一時、正服に威儀をただした産津宮 午前十時三十分、沖中両宮の御一士の画影を偲ばせる勇壮な流納馬一献幣便、氏子奉幣便等、修被の 十月二日、午前八時、秋の陽光|喚声が上った。更に定刻、午前十

(10/1)

沖を通り、更に西に転じ、打上げ一上され、地元玄海町田島青年団奉 長手、大漁旗をなびかせながら航 | 家皇室の安泰と氏子崇敬者の 繁 「協栄丸」を中心として、紅二の「永島俊一)に続いて葦津宮司の国 大船団は、御座船

「第五蛭子丸」

一た。

郡内神職奉幣

(年毛神社宮司 十月一日、午前九時三十分、大 トカー先導の下、正午、辺津宮本 栄、大漁満足を祈念する視詞が奏 殿に安着され第一日祭が斎行され 御座車に遷され、宗像警察署のパ の間、御神墨は崇敬者奉仕による 更に、神湊街はずれより約二粁

道にふりそそぐ中、伝統の宗像武 司以下神職、奉仕員、宮地 ば神社

よって奉幣の儀が行われた。又、 会供進使田中富樹氏(玄海町)に 使の奉幣詞、更に、宗像六社氏子

前に奉献された。

かくして、年中最大の神事であ

に日本中世の時代を背 始めた、楠早鳥氏の小 始め、「神湊」を書き

説は、宗像一族を中心

景として、この元明虚

(日本に帰化して井上

たてられた濃茶はうやうやしく神 も鮮かな見事な点前が披露され、 献茶の儀が行われ、袱紗のさばき 設けられ、南坊流川口社中により

境内にあり。

ぶ、これを知って父許六は才市と

明継とすばるはやがて契りを結一言する。それは対明、対鮮貿易を

和事片明成之墓。此石碑、鎮国寺

【碑銘】日正平十年二月九日往生 許斐城に拠って撃破出来た氏俊で

場では、田島地区子供会約百名の 御神宝の翁面をつけ、古式床しい 福岡喜多流能楽師の奉仕により、

三日間を絶好の祭日和に

弾正の選子となり、明

継と名のる)を主人公

として、一大スペクタ

158 Pa W

DAX.

TO KE

行が集まり、チビッ子相撲が行

れ、大社賞として大トロフィー

翁舞が奉納された。 又、 造内相撲

協奉仕員によって奉鴻され、神湊 中宮祭が斎行された。続いて、荘 の街並をしずしずと巡幸された。 重な雅楽の調べにのって、三宮の

> 俗 舞 奉



奉 納

(あらすじ)





風

納

福

長 庵 鳥

画 作

昭和四十五年四月一日号を以っ 者は、弾正の養子となり、名を井 あった。宗像家の家臣となった若

は明継の軍略の前に響難の藻くす

しかし九州探題今川貞世は、大

を一段回としてまとめて見まして宗像領に迫る。これを明継の奇 八回を数えます。この長い物語に、一京地武義は一万の大軍を擁し 策により、多多羅川に迎え撃ち、 上明継と名乗る。 時は南北朝争乱の最中であっ

築くが、菊地の抵抗、在地守護等 内弘世の援助により地盤を着々と

て始まった「神湊」は今回で、九

の中にある。 の反乱などに会い未だ九州は争乱 し社稷を全うすることを氏俊に進 明継は宗像をこの渦中外の地と

この人物に興味を覚えて研究を一の結婚を願っていただけに激怒す一と、又、大内との同盟により一族 盛んにし領内の産業を振興するこ の繁栄を守ることであ

婚であった。 近の一子、照記との結 大内の重臣黒川刑部照

伊藤常足

府に陣をとる将軍宮の 滞在する明維に肥後関 婚礼のあと、山口に

前御の報せがとどく、 「州の戦乱の終焉を見

途中で弘世の死の報を された明維は京へ向う 川継を京に送る。 幕府との折衝を一任

新しき平和日本の繁栄と遺族の方 同日、午后二時、拝殿に茶席が一す)

、の隆昌が祈念された。

た人々に紙上より御礼申し上げま (大祭に 御奉仕 いただきまし

太祖の探策を逃れて、 児、允明盧は別国王

向う船に乗った。 船頭、許六の船は嵐

かれ「神後」へたどりつく。 者、
か明

虚の機略によって

死を
免 |にあい難破する。しかしこの若 | るが、才市がすばるを愛するがゆ 許六の一人娘、"すはる"は才

者、か明嵐と出合うのである。 た"すばる"は始めて異国の若 される、神湊に父許六をたずね来 市という恋人より父の遭難を知ら 者は、日本の国体、また宗像社の 宗像大宮司館で静養する間に若 中の明国の僧、趙越、により明継 世をたずねる、折しも山口に滞在 る。氏俊の命を受け町継ば瀬戸内 瀬戸内海賊の協力策を求められ 世が九州探題に任せられ、氏俊は 娘の幸せを祈りつつ海へ去る。 えに彼女の幸を説く言葉にまけ、 海賊を掌握する西国の雄、大内弘 この頃、遠江の守護職、今川貞

影を感じる。ここに明継と絶海と 世の死の報により、明継の心中に 帰途の後に知った西国の雄大内引 の智力戦が始まるのである。 一方、斯波義継と絶海は、明継

信仰の話を掘り起しておかなければなるまい。 豊の花形だった石炭とそれに伴う遠賀川の鮭神 10 筑前国続風土記によれば、

顿 宫 祭

流 部 115

国の英霊を慰め、靖国の神としてる。

内遺族関係者約二百名参列の下護

神 4

> 恵まれ、午前十時、秋季大祭三日 や金・銀のメタルが授与された。

人を数えた。

やがて、秋の深みに宗像平野は

る物語りである。 クルを展開する。。玄

界の浪火』とも呼ばれ

間で自動車一万台、参拝者約十万 雑踏で、社頭は終日賑わい、 ざわめきの中、立踵の余地もない 恵まれ、垃内は露店の呼び込みの る秋季大祭は滞りなく終ったが、

十月三日、前日に引続き晴べに

祭斎行、宮司祝詞に引続き、玄海

奏ざれた。午前十一時四十分、境

宗像郡護国神社祭が行われ、郡

を

みせ、

宗像

天神の

御神威はいよ 坐す、玄海の大海原は鰤漁で賑い

見る事にする。

いよ伊照り届くを覚えるのであ

中学女子生徒奉仕による浦安舞が一黄金の波がそよぎ、大神の主領き

あんまり煙突が高いので、 する鮭神信仰がこの一帯の農業を背景に生まれ 域は、古くからの農村地帯で、鮭を神の使いと 社近くを流れる葛麻川や穂波川彦山川などの流 祭りあり、これは鮭を神に崇むと云か…」と、 **具原益軒と書いている。遠賀川水系でも、鮭神** 「鮭大明神、大川村の産神なり、霜月十一

に見られるが、毎月丑の日に田畑守護の神に祈 を海波に囲まれた日本列島はどこも海辺の祈り を異にする感があるが、海であれ川であれ四囲 水系の場合は海辺の祈りとするには、少し事情 る丑祭りも全国的に見られたのである。遠賀川 干支の巳の日には、巳の日脂りの信仰が諸方

眺める限りでは、とても信じ難い鮭の川登りは **鮭神社が遠賀の上流にあって、汚濁の水面を** 石砿積出シ港若松は鮭の産地であった

「月が出た出た月が出た、 二井炭砿の上に出た、

かの時代があった。 ジリ鉢巻は、集りや酒の座、ましてや縄のれん ても雕ざれぬ炭砿節が華やかに躍っていた。ネ る動脈遠賀川、いわゆる川筋男にとっては切っ と、積出し港として繁昌した若松、それに通ず で炭砿節を歌うことに大きな誇りを感じていた

のトップニュースであった。 のである。川筋男の代表視された若松の作家火 野葦平が、出征の直前に受けた芥川賞もその頃 厄介な問題も炭砿節で吹き飛んだ時代があった 公害だ汚濁だと喧しい現代と違って、どんな

脈から生れた題名としては、むしろふさわし 葦平の入選作品は、糞尿譚で当時の汚濁の水

さぞやお月さんけぶたかろと

も

一

施

に

持続

だ

れないが

、

祈

り

の

真

剣

さ

に

劣る 黒から弁財大まで忙しく動員されて、漁民の懇 よって関興する官僚、こちらに精神の抜けたも 所はない。むしろ大組織の祭儀、それに官命に 祈の対象とされている特色は、一国の興隆を願 れた祈りである。授福繁栄のために、恵比須大 流の安全と漁業の大漁とが、祖先から受けつが う国家的大祭儀と同様の規模はなく、その精神 海洋民族の祈りに年中格別の変化はない。海

見られる。一木の瓜の実に一切の禍が封じ込ま られるが、瓜封じの行事に集う衆庶にふざけた れて四神を東海する信仰は、多少滑稽味も感じ じられている。瓜封じといる祈願にその 順調な業務の障害となる細神も、一部から信

ある。

国司氏俊に仕えることとなるので

高麗は、宗像に通信使を派遣して 愛する。その頃倭寇の跳梁に脳む

この禁止を強く求めて来る。

井上弾正の周旋によって宗像大

由緒に鮮烈な感激を覚える。

の出自を知った弘世は彼の才幹を

忘れられないで欲しいものである。 れは海の子白浪の…」と歌って育った素朴さが どんな境遇の変化があっても、漁民には「わ」さけるために、偽りの葬儀を営 み、允明盧なる若者が宗像の地で 氏俊は、明国王太祖との軋轢を

圧することを約す。

宗像、大内の水軍の手でこれを制

は塚において乱を起し、四十四才

氏俊は富山浦との交易を条件に

あらすじをかり返って 學波より筑前国宗像へ の英傑(張士誠)の西 元王朝を倒した一世 今回はこの物語りの

任近きを知る明継であった。 行を知り、九州採題今川貞世の解 将軍足利義満西国災

乗る僧と会う。

の館で、絶海中津と名

幕閣の要人斯波義継

の急逝を機に幕府に対し大内義弘 な噂が流れしだいに暗雲が広がり 将軍足利義満と大内義弘との奇妙 感銘を受ける。その頃世上では、 世を見る力とその造船技術に深い 軍、村上義弘に会った明継は彼の 始める。折しも関東管領足利氏満 京よりの帰途、因島の海賊将 ご合陶と言えば、夫人を勿体つ

報道機関はもうこんな文字は用い

くても才媛であったに違いない。

(3)

かご内室ご内儀と敬称したよう やらない。古くは細君をご籐中と いなかったが、今日でもあまりは けて指す文句だが、当時も使って

なく時代感覚がソッポを向く。 ないが、当用漢字にないだけでは

でどんな批評をしょうと、七十越

を感ずる。

じ日本人でもとその逸脱に時代色ある。

衣の平安女性などに比べたら、同 う。時代色の変はは面白いもので 爆も重大事だが、ノーモア特攻機

達の煙草と多弁はひどい。十二単進むどころか流然自失の形となろ

それよりも喫茶店のジーハン嬢

ースを提供しても、原稿紙に筆が

下に提げた鈴は、いつか鳴る。 悲痛な絶叫は、原爆の炸裂を絶対

戦争話に関連して、ノーモア原

らぬ山妻は気にする。学生達が蔭 の果ての頭を、わが家のご合国な 行ったことのない悪七兵衛のなれ

で、近世では明治大正の文人の書

ちが賑やかに日本語を振りまいて

いため喫茶店に行くと、若い娘た山妻の立場はそうはゆかぬらし

す集団万引、やくざまがいの組長

学校をサボッてデバートを売ら 令室はどうでもよいが、二度と涙 た意見を強調していたが、真の愛

話の筋は少々変るが、才媛やご 攻機考案者の非人間性を剔 抉 し

を誘ってもらいたくないのは、九 国者、純忠至誠の人は、どんなに

戦局が行き詰っても、どんなに危

組織に登場の女番長、刃物を持っ

段の妻や岸壁の母である。

朝早く、よいコーヒーが飲みたえた老骨少しも意に介しないが、

名を証われた小野小町の外は、競 ないが、美人として後世までその 人点数はつけられない。クレオバ トラ楊貴妃に おらぬ傾城の美人

身分の差がなくて結構。北政所や

今は奥様が無難で、これに貧富 にしたいものである。

二の丸殿と城中居住の場所で、本

妻第二天人を表現した織豊時代も

族思想史と

残 筆

から

5

み草

紙

(45)

かに爆発する。ノーモア被爆者の

長、女強盗 団、女番 などのニュ

女子大に民

ところで、隠士は週に一日、某う。どうでもよいことだ。

の取材に興味があっただろうが、

面白い傾向であった。

熱海の海岸で、間貫一に蹴飛ば

講義に出

平安文学に登場する女性は少く、状など現れた程度で、今頃ご今閨

二字は浮んでこない。ジーパンに

った頃の経験から、主人の乱髪は

もの痛呼が無いらしい。女学生だは吹き飛んでしまう。

奥さんが居りながら、あの先生 て押込強盗事件も先頃の 新聞記

福助 八百点

自にげた種明かし。とても才媛の つかむ秘法を、煙草吹かしながら いる。母親をごまかして小使銭を

安ものの首回り耳輪は、願い下げ

きっと話題に上り、こき卸されてをつづる紫式部は、当時宮廷に羽

は一寸おかしい。

才

媛

لح

ح.

令

閨

躍で御所の内外に羽をひろげたも

清少納言等は才媛の評価は残され のであろう。然し、小式部内侍や は、大宮人の誘惑の中に延横の活

されたお宮は、金色夜叉が賞めなる。五六年前から一度も散髪屋に

御 案

内

月 0 神 賑

行

事

日~二十二日

菊香漂よう錦秋の御社

頭

第十六回 全日 第一〇回 西 日 本 本 菊 菊 化 花 大会 大 会



を「四日本菊花大会」の名称のも 来、九州、山口各地の菊花愛好家 することに決定した。 数度の役員会、理事会を経て、同 望があり、関係諸団体との接渉、 花大会を来る昭和五十五年十一月 本菊花連盟より第十六回全日本菊 社菊花会に対して、社団法人全日 於いて開催している。この宗像大 とに毎年盛大に宗像大社の境内に が一堂に会し西日本最大の宛花展 愛菊家が集まり結成発足した。以 四十六年、宗像大社御屬宮·奉祝 月日に宗像大社境内に於いて開催 大祭を機に、北九州・筑豊地区の 十日より三日間開催したい旨の要 菊花は古来国華として、或は皇 菊花愛好家の会は全国各地にあ

大な菊の祭典にしたいと会員一同 家が精魂こめて作出した四千数百一会場 点の銘品を一堂に陳列展観して盛 道より南は沖縄に至る全国の愛菊 まれてきており、当日は北は北海 室のご紋章として人心に深く親し 又この天会は斯道交流を拡大し | 出 品 切花 三千点 致団結してこの大事業の準備連 会期 宗像大社區内特設会場 十一月十一日・十一日 昭和五十五年十一月十日 宗像町西工青年部 神湊旅館組合 玄洋ライオンズクラブ 宗像大社・主婦の友社 福岡商工会議所 宗像郡町村議長会 出品·密查·表彰式 一般観覧

主催 後 (予定) 福岡県農協中央会 援 福岡県、外九州各直 宗像青年会議所 宗像大社菊花会 宗像郡町村長会 (社) 全日本菊花連盟

花連盟全国大会開催 家建設への一助になることを目的 として開催するものである。 《第十八回全日本菊 (社) 福岡県観光連盟 二、出品規格

〈全国大会役員名簿〉

選とする。

☆出品花は自己の栽培したもの ☆同一品種の出品は一人一点に に限る。 出品とする。

合何れの出品物も出品規格には ☆切花の茎長は花首以下五○糎 7特別競技盆栽は岩・木付の根 ☆福助作りは 鉢底より 花首まで ずれたものは質の対称としな 位迄が八〇種以上あること。 四〇糎以下とする。 とする。 上り盆栽で鉢匠より花の最上

四、出方法 二、出资格及制限 会出品の費用は各自の負担とし ☆出品資格は全菊連個人会員に 限る。

☆出品物の審査は現状比較審査

の普及、発展を図り花を愛するゆ

和みある地域社会明るい平和な国 一、部門及種目 九部門二七種目 〈全国大会出品規定抜萃〉 部・⑧盆栽の部・⑨特別競技 の部・⑤キングサイズの部 ③古花の部・④一文字その他 ①新花の部・②普及花の部 ⑥競技花の部・⑦福助作りの

限る。原則として五点以内の

福岡県観光連盟会長

吉本弘次

化

五、審查方法 所定の手続きし出品係に提出 幹 事 する。出品の切花福助は返却

台審查員及员終決定審查員は、 幹事長

総出品予定数四千点

全架連登録密查員の内から全

とりある人心を育成し豊かな家庭

顧 問

門司鉄道管理局

全氣運 副会長 宗像大社 大会会長

粕屋·遠賀·宗像町村長 福岡県町村議長会 福岡県町村長会 九州花市場連合会 九州•山口花卉連 宗像農業協同組合 福岡県教育委員会

宗像青年会議所理事長 神湊旅館組合長 郡町村長公軍務局長 県観光連盟専務理事 宗像大社菊花会顧問 宗像大社祢宜桐本 正

六、出品物の入賞率 ☆出品物の入賞率は出品数の三 ☆賞の順位は、特選・優勝・A 菊連会長が指名委嘱する。 〇%以内とする。それぞれ賞 状及賞品を授与する。

衆議院議員 今井 勇 福岡県知事 県議会議員 伊豆醬也 山崎 拓 麻生太郎 辻 英雄 田中六助 太田誠一 三原朝雄

宗像郡町村長会会長 宗像大社菊花会会長 宗像大社宮司輩津嘉之 (社) 全日本菊花逕监 高橋半三 高橋貧平 れる。 西日本地区を代表する二百数十名

立部但道 樋口芳郎 高原鹿吉 数百鉢が一同に展示展観される運 ひとなっている。 の菊花変培家が育成した銘花三千

鹿毛嚢勝
| 今月末の菊花搬人を待つばかりに | 賑いました。 会青年部(時安正明部長)の手に 設される展示ハウスは宗像町商工 なっている。 間に渡る作業奉仕により完了し、 より十日、十二日、十九日の三日 大会会場となる神門前広場に特

は大臣賞外受賞者が発表される。 十月三十一日には審査。一日に 三日

に避けさせる力はない。無風の軒 ア鹿屋基地、ノーモア武勲の非人 | 代表選出によって、個人・団体戦

も容認されてはならない。 られぬ悪魔の考案は、何の場合で 果的な働きが出来る。絶対に生き 人間は生きる希望があって、効 〈摘要〉 佐賀、長崎、熊本、大分各県より 大社境内に於いて十回展が開催さ 来る十一月一日より同二十二日迄 致すことになっています。 宗像大社菊花会の主催により宗像 内約一〇〇ケ所の福祉施設へ寄贈 岡ブロック会員の手により福岡県 事務局長 宗像大社菊花会 今大会も昨年同様、山口、福岡 尚出品類花は日本青年会議所福 一方恒例の西日本菊花大会は、 芳栄会 宗像青年会議所副理事長 熊本県菊花連盟 宗像 对友会会長 篠原久雄 大分市花卉同好会久田益三 山口県菊花連盟 古谷静次 福岡市菊花協会 佐賀県菊花会 八幡南部秋芳会 筑紫元太 橋口武夫 堤 堀尾米吉 高田太助 宏 二日(日曜日) テーマ 翁 期日 が日

おばあちゃんまでの参加で昨年は〈摘要〉 大な大会となっています。 好家二〇〇余名参加予定一 △摘要◇ この「かるた」大会には全国各 - 全国各地の『かるた』愛 小学生から最年長者八十二才の一吟詠大会です。

会 観 開会時間 午前九時 場。斎館、清明殿、 戦」飲迎致します 、宿衛舎

小学生から一般まで 剣 五〇〇名の剣士出場― 道 大 会

(月曜日)

劍士までの各学校、クラブ、道場を博しています。 郡内の小学生劍士から大学一般 期間七日~十一日 △商要▽

の乱髪をほっておくとはの才媛ど 事。こう列べると才媛のイメージ された記念日が近づくと、ノーモ いると山妻は思っているのだろ振りをきかした光源氏なるキザ男で、核兵器反対の運動が盛り上げ 石山寺でひとり静かに源氏物語 先頃、ニューヨークで開かれた世 持っている以上いつか地球のどこ られたが、核兵器がどこかの国が 界名国代表一万数千人の大集会 ア・ヒロシマの宣言が登場する。 毎年八月六日広島に原爆が投下 愛国とか勝利とかの美辞で飾った 飛行機に自分が乗るのではない。 ろう。愛と殺、帰還燃料を積まぬ れに乗る特攻隊は計画しないであ 地に追い込まれても、特攻機とそ 国者に出来る考案ではない。 悪魔が他人を乗せて放つ。真の愛

八月は、ノーニア特攻機、ノーモ 満も吐かず黙々と死んで行った。 多くの若い学徒兵が、一言の不

間的悪魔追放の連鎖月であってよ一が野外で行われる郡内最大の劍道 試合開始 午前九時

会 場 本殿横續内 (但、雨大の場合は玄中体育 | その他 観覧時間 午前九時三十

分~午後五時迄。観覧料、無料

会

一の一、二階

第四回かるた大会 三日 岭 (月曜日) 会員による美声の披露ー 詠 大

地からの参加申込があり、年々盛 大会は清香吟社 (会長・益中桜月 を決める会です。 開始時間 会)社中の会員一五〇名による奉納 <摘要> 今年で第七回を迎えるこの吟詠 揚 宿衛舎 午前九時

郡内愛好家秘蔵の各種 盆 栽 展

盆栽一五○鉢展示-

七日~十一日

が展示されます。 愛好家、参拝者の間で大変な好評 納盆栽展が執り行なわれ、年々参 | して年々発展しています。大会で 加出品数並に恒秀な作品が多く、 今年度も出品展示数約一五○鉢 宗像郡の盆栽愛好家によって奉

会場於、祈願殿、祈願所口ビ 位お誘い合せの上ご出席下さい。 開会時間 午前十時 の来場も歓迎しておりますので各

御 七 案 五三 内

ま

つ

1)

道 大 会

八日

(土曜日)

筑豐菊友会

伊藤富夫

当社では、お子様の健やかな御成長を御報告する、恒例の「七

五三まつり」を本年も左記により執り行います。 昭和五十五年十一月九日(日)~十一月二十日(木) (尚この期間以外でもお祭りは流行しております)

る、個人・団体戦で有名です。

郡内八中学校の一・二年生に

-郡内中学校新人戦-

本殿にて斎行

ので、奮ってご応募ください。 左記要項により、「スナップ写真コンテスト」を実施致します 『スナップ写真コンテスト』 (都合により祈願殿にて斎行する場合もございます)

試合開始 午後一時

館

(但、雨天の場合は玄中体育 場 本殿横境内 △簡要◇

なっています。

の自信と技量を獲う実戦の場とも

評価されており、大会後の各選手

この大会の新人戦の内容は高く

送り先 福岡県宗像郡玄海町田島、宗像大社社務所内 発 表 昭和五十五年十二月五日、 宗像大社 昭和五十五年十一月三十日(必着のこと) 写真コンテスト係、(サービスサイズ以上) 『七五三』『菊』宗像大社に限る 後援 富士フイルム 外 (入選者には各賞あり。) 0

九日(日曜日)

会 第八回 宗像大社本因坊戦 一郡内囲碁界の 最高位を決める一

標を立てる待望の大会です。 その年の郡内実力ナンバーワン 年々充実した熱戦をくりひろげ 宗像郡の囲碁愛好家が一年の目

試合開始 午前十時

戦 歓迎致します 拝殿橫宿衛舎

十二日(水曜日)

ー県内外より 献詠短歌大会

二〇〇余名参加-

による批評、感想等を発表する、 先生方を選者として招き、講評と は、県内の著名な斯界の指導者の ユニークな大会と好評を受けてい 指導を受けると共に、参加者相互 ます。当日は一般の愛好家の方々 県内でも権威ある短歌の大会と 株のピンクの芙蓉むれ咲きてたは

二、明治二十九年長崎県編纂「漁」ったと祖母さんから聞いたことが

になることだと云われている。 チをたたくと魔おとしになり幸

ろ「昔はいろいろと拝みごとがあ

例の弘、曲、大島で探訪したと

いて海に潜っている。たたかない 以上の七例は一例をのぞきいずれ

も船の舷側をアワビオコシでたた

ハは鉄をきらうのでカネでコブ

名護屋(佐賀県)ではガワッ

業誌一に「海土は最初に潜水す」ある」とおぼろげな話を聞くこと

ができた。昭和六年頃は既に消滅

重刀

けに興味がもたれる。この問題に 女として古い歴史を有しているだ 鐘崎海女のこの儀礼は、ここが海 カアルキの地蔵さんの江字を書い

災難除けに飲まれると何った。

たいて潜水すると云う。 ではカネをちょっと刺につけて

打ち振り、それからコプチをた

の為だと思われる。

が教えてくれなかったのは、そ と思われる傾きがあり鐘崎海人 にしていなければ効果が薄らぐ

ごわめきとイカ焼く匂のただよえ一たこの論文は海女の用いる道具の

共通性と相違によって海人の系統

りて諸般の炎害を予防する也」 る時、起し鈎を以て舷を嵌き水

一界灘、響灘沿岸の海人たちは潜水 していたのであろう。とすると安

いる。このなかに、おやっと思わ

に潜むを口とす、蓋し海中にあ

女界灘沿岸の浦々を訪れてまとめ あるが、桜田勝徳氏の「油村民俗 誌」が成も詳しい。昭和六年以降

(第三種郵便物認可)

第二三一回

エビスと唱える田である。又、ナ

いての詳細な報告はあるが、海に 季刊宗像ほか各新聞が紙面でとり えさん(大正九年生)については

一一船のコベリを十口ほど叩きこれ 一イ、北浦、通浦(山口県)の海人 例をあげられている。

を魔よけのまじないだと称して

るらしい、こういう咒言は秘密

の信用が、まだ此の咒言にはあ かった。これを秘密にするだけ 文句を教えて貰うことはできな かを唱えるということだがその

は海に入る際に、アワビガネで

あげている。いずれも

に

で

に

で

のはない、りきえ、んの話による

一口、東松浦郡 (佐賀県) の小川島

人身する儀礼について書かれたも し舷側をアワビガネでたたきトウ

宗

歌会詠草 像大社 捨うちわ一句したため枕辺に

久留米 入江

柳江

(4)

俳句作品集(三三) 宗像大社歌会

津屋崎 熊本

隼

平凡といい幸せや敬老日 虫啼いて無月の風情保ちけり 冷害の傷跡深く秋に入る 田 鐘 崎 山脇るみえ 熊 安部 ゆき

大関を目指す幟や秋の空 名古屋 野崎 四三 間 廣渡一寿軒

のぼり旗樹てて賑い秋祭り 揺れて浅間の煙向きかへる 八幡西 磯谷 緑雨 沢玄洋

秋簾透く明暗に足らび居り 柿もぐや竹の先なる雲一つ 列車待つ屋こほろぎの無人駅 田 井 木原 房子 熊 力丸 一郎

切通し出れば「三里稲の花 相逢いてやがて別れや秋の雲 宗 像 吉田 大井吉田 終子 杏子

宗

みたが、誰方も記憶が不鮮明でた

民俗研究の先以的役割をはたして

八十才代の老女を二、三人訪れて一この方法は現在でも用いられ漁撈

鐘崎の海女の話を聞こうと思い | を切らかにしようと試みている。

海女漁 (その五)

本 記

たたく風はない。

海女魚を営んでおられる本多りき一前に海女が行う儀礼として各所の

したことは聞けなかった。現在しいる。この中で桜井氏は海に入る

ト、鐘崎でも盛にたたく、たたく

前に鮑オコシをいただいて何事

マと唱えて跳び込む。

鐘 崎

民

俗

誌

その二十七

像

鐘 崎 貝 塚 (上八貝塚)

(玄海町所在) だ

(1



は「玄海町史」によると、「慶長 上八(こうじょう)という地名|る。

てみたい」、中学のクラブ室で簡 「鐘崎のジョウハチ貝塚へ行っ | 宝器 | という見出しで 「近時、福

間の三野章先生にいったら、「ジーとして石器時代の遺跡遺物の発掘 生は懸命に縄文土器を追い求めて|羲を価値づけるものであるとの折 読むんだ」と教えてもらった。三一紙の報せし所であるが、次で旧冬 ョウハチ?、あれはコウジョウと一せられつつある事は、いち早く本 いたのである。 愚器をそう呼んでいた) は、とこ | を喚起せし折から、ここに又この | 弥生土器や祝部土器(当時は須 紙が附けられるに至った」とあ

米大豆干百五十九石とす。上八の一ある。近くにコンクリートの祠(一にすむものばかりで、海流に異変 検地帳に上八村田畠八十九町、分一の北端、松林のなかの砂丘上にに一、タニシなどいづれも現在の支荷 ぶか)しきも、山口県熊王郡伊保一安川浄生氏の「宗像の歴史散歩」 字をカウジョウと読むこと形(い | 最近作ったもの)大歳宮がある。

なか読み難い地名の一つである | 側約五〇メートルほどの位置とな 地域にもこれで例はあるが、なか|海の方にむかって神社の鳥居の石 ョウという」と記されている。他一宮とあるが。あれはまちがい。

(5)

の貝塚を以て、学界に重大なる意 更に田中教諭の発見の、郡下鐘崎 | を「サザエ、アワビ、カキ、アサ 古学」に之を紹介して学界の注意 十一月同校田中教諭は、雑誌「考 頃斯学の杉山寿栄男氏の踏査は、 岡県宗像高等女学校庭より、続々 千年前民族の遺跡、縄文系の貝塚 三一目付の福岡目目新聞に、「四 されたものである。昭和九年一月 翻だった田中幸夫氏によって発見 宗像郡鐘崎の松原と宗像神社の 鐘崎貝塚は、当時宗像高女の教 朽ち果ててしまっている。 貝塚は厚さ約三〇~九〇センチ

圧村にも上八ありて同じくカウシーには写真つきで「貝塚あとの大歳」かったことも想像されます」と記 鐘崎貝塚は五月 (こつき) 松原 | それに淡水産のシジミ貝、川ニナ

塚を鉄条網で囲っていたが、今は くなってしまっている。以前は貝 や、幼松も成長して、一寸分らな ないためか、貝塚の周囲は雑草 うにして残っている。地元の古老 れており、林内に立入ることが少 松原の防風保安林は鉄線で柵がさ いるのがみられたという。現在は があって、白い貝殻がちらばって にきくと、以前は貝塚の下に道路 る。貝塚は砂丘上に盛りあがるよ している。岩礁性のサザエやアワ ったりである。

がって気候、気温が今日と大差な のないことを物語っており、した イ具、ツメタ具、ヨメガカサ、オ オヘビ貝、ホタテ貝、ウミニナ、

じ。田中氏が同書で「玄海の狂濤 ようで、海の位置もほぼ今と同 の地形もほとんど変わらなかった 気候もさることながら、この付近 ているホタテ貝は恐らくイタヤガ ったことであろう。ここに記され は近くの小川か釣川あたりまで行 イのあやまりである。さて当時の 鐘崎」と述べているが、まさにぴ (きょうとう) 寄する宗像郡岬村 ここから出土する土器は縄文後

リ、バイ、アカガイ、ナガニシ、 社・昭和二五年)の中でここの貝 「九州考古学」(西日本教育出版

ビは鐘ノ岬付近で、淡水産のもの 巻文をえがくものと、二条単位の

大切包丁

弐拾枚

(寛政九年丁巳十月十五日)

代銀八拾目八

壱枚二付四匁宛

百枚

為締仕組之間脇指帯候儀御免被仰 石之者兼而鯨仕組差心得居申候付 油練小道具

切

有

大

島

捕

鯨 資

料

その十二

代銀六拾目ハ 小切包子

壱枚二付六分宛

テングニシ、レイシ、クボ貝、ハーのひくい山形をなし、この部分に の混上貝層である。田中辛夫氏は

朝

表口三間、入五間 赤身納屋 小納屋 大納屋

壱軒 壱軒

寬政十年戍午 十一月廿四日

表口六問、入弐拾八間屋納屋共 ~銀五拾弐貫九百九拾目

申者鯨組仕組之間斗ハ脇差帯候儀

差免候条加付札浦奉行江相渡之 右、数馬郡方請持より要右衛門と

道真納屋 表口三間半人弐拾間

壱軒 壱軒

表口六間、入三間半

人嶋鯨組甘木屋善石衛門仕出候

借銀申出銀三拾貫目浦救より

右、外記聞届候、何之**通**可申聞旨

銀拾貫目丈夫之引当差出候ハバ、 処、此間より追々績廻居申候外、

注借可申付旨

中聞置候処引当差

長州須佐浦組株相鯛差廻候筈二候 私共江拝借被仰付候旨石為引当、

寬政二年庚戍

る。 の「黒崎貝塚」の報告がある)か 丁目所在・北九州郷土史研究会刊 州市の黒崎貝塚(八幡西区黒崎五 ら一片が採集されているし、北九 宗像郡内では津屋崎町今川遺跡か 県の御手洗B式は同部類に入る。 益重隆)。尚、形式文様とも熊本 ながら、流麗な文様帯を構成する があり、ともに暦消縄文を併用し 沈線が渦巻状に左右あ食むものと 」(日本考古学Ⅱ、縄文時代、乙 ら大量に鐘崎式土器が出土してい

箆描沈線文と暦消縄文をかざる。 いる。もっと土器の特徴を記すな 崎の縄紋土器 考古学5~4昭和 が、普通には黒褐色で磨研されて る。焼成は黄灰色をしていて悪い もで、浅い底か平底となってい されている。広口の鉢形土器がお 肩部に重弧文や「の」の字形の渦 期の標式土器で、鐘崎式土器と称 一肥厚した口緑部は二~三 る文献は、杉山寿栄男「筑前鐘ケ 年がある。 器一考古学雑誌26~7、昭和十一 九年。田中幸夫「北九州の縄文土 石鏃スクレイパーが出土。出土遺 部保存されている。同貝塚に関す 物は九州古学と県立宗像高校に一 土器の他に鹿角製の笄、石斧、

宝 0 蔵 か 5

しかし海女漁が過去の漁法となっ
悪事災難のがれ漁マンのいいごと

ホ、弘(福岡県)や曲(対馬)や 側をたたくのを例としていたのは 要もないためかまた話者が船頭で へ、対州に出稼する天草の海人は一が、天草は「エビスサマ」と唱え一た。「漁場につくとオシオアを撤 カネでコブチをたたきエビスサーているが鐘崎は秘密で解らない。 大島(福岡県)では、今は舷を一間追いがない。その折りに咒言を一あったためか、鐘崎の八尋新ぃん一たき海に潜った」ということがよ の際は必ずアワビオコシで

叶の舷 | た今日では、特に秘密性を保つ必 |)と言うて、オコシガネを額につ たのは天草と鐘崎である きオコシガネを海水につけて、 五年生)が語ってくれ

漁まんのいいごとと唱えてもいず 水に潜る前の儀礼としては光言自 くその間の事情を物語っている。 体にはたいした意味はないと思わ 行ったであろう。そうすると、海 人たちも心中ではこの種の祈りは 分咒言を口に唱えない他の浦の海 れもその内容には変りはない。多 エビスサマでも悪事災難のがれ

をたたくという動作にもその発す くたたき、大声をあげると云う。 カンズカ(柁棒)でフナベリを叩 崎で舷側をたたくと云うことは珍 意味があるのではなかろうか、鐘 喚起させる目的のようにフナベリ おそらく農耕儀礼の玄の子打ちや一うに「修正」したりということに は耳がとおい故に、できるだけ強 きトウエビスと叫ぶがエビスサマ れる。これは舷側をたたく動作に に横たわっているのではあるまい 地鎮めのドウ突きが大地の精霊を 裏づける証拠文書を書き写して、 像社大宮司であった宗像長氏(な がうじ)が、社領支配の正統性を 鎌倉時代、蒙万軍襲来の頃に宗

古 文 書 0 話

2

大嶋鮮場語人

唐津呼子領

五ケ年賦上納可被取斗候旨

、以行

借被仰付候条御定之通来末年より 浦救銀之内より銀子拾貫目各江拝 易難相成儀候得共以□議伺之通、 右、郡方請持隼人より承屈候、容 出候付、是又浦救銀より御渡被下

札浦奉行二相渡之

寛政十一年巳未

け三つオコシガネでふなべりをた一人のかおりがいっそう秋のすがす は「古文書の話」の誤りです。お 文化財保護について、とあったの 書かれたウソについて。(先回、 話第二回として今回は、古文書に 々で賑った。 も、この三日間は多くの拝観の人 がしさを感じさせていた。宝の蔵 ような青空が広がり、キンモクセ さて、古文書(こもんじょ)の 今年の秋季大祭は、連日ぬける

利などころは隠したり、有利なよ 主張して譲らない。いきおい、不 る者それぞれに、自分の正統性を で、他人の領域を犯す者、犯され 配権に関わる文書である。いつの 世も領土問題はやっかいなもの ゲいたし候段申出之 右、外記聞届 昨八日大嶋鯨場勢美鯨七尋壱本 掛取候段申出之 寬政二年度成 三月十万日

左之通拝借仕居甲倖然ルニ不漁こ

代に当社が領有していた荘園の支 わびして訂正致します。) 像神社文書」は、大半が、鎌倉時 現在宗像大社が蔵している「宗 **右、外記聞届之** 勢美鯨七尋壱本掛取候段申出之 一昨十六日七時頃大嶋折瀬冲二而 寬政二年庚戍 二月十日 浦奉行

を譲るという証文(譲状)の中 せる文書の写しがある。宗像氏業 至り低通モ少ク候通去ル五日組揚 大嶋鯨場去冬己来不渔其上頃日二 (うじなり) が息子長氏に大宮司 門請負取上が申付候。 揚迄二而諸事差支候条、右善右衛 有之永続不相成侯付当春大嶋浦組

御領内江鯨仕組仕居侯より永相続 私共江拝借被仰付、侯此外浦救銀 其節御当用銀六墳目拾ケ年賦を以 木屋善石衛門相顏小呂嶋江組仕居 用方潤筋ニ御座候付、去巳ノ年来 繁栄仕候得バ先に御国益ニと相成 十月廿三日

に、「最明寺殿」ということばが事実を渡すほどのことではない ある。最明寺殿とは幕府の執権北 る。長氏の大宮司になったという が、この文書には何かが秘められ 書に手を加えたということであ 後に、誰かが何かの目的でこの文

幕府に提出したものの控が残って | 文書は、建長三年(一二五一)の | る。一番遠いところは、自分の背 年号をもつ。つまり、時頼出家の 家は庚元元年(一二五六)、この うになった。ところが、時頼の出 明寺に住したのでそう呼ばれるよ 条時頼のことであり、出家して最一ているのかもしれない。 なか、とはよくいったものだ。 りあてるのはわれわれの力量であ けるものであるが、その真実を探 古文書は、歴史の真実を語りか